数学 A

場合の数と確率，図形の性質，数学と人間の活動

―― 目　次 ――

場合の数と確率

1　集合 …… 4
- □**Q1** 基本 共通部分と和集合
- □**Q2** 重要 補集合の性質

2　集合の要素の個数 …… 8
- □**Q1** 基本 集合の要素の個数
- □**Q2** 基本 補集合の要素の個数

3　集合の応用 …… 12
- □**Q1** 重要 倍数の個数
- □**Q2** 重要 集合の応用

4　樹形図 …… 16
- □**Q1** 基本 樹形図
- □**Q2** 基本 和の法則

5　積の法則 …… 20
- □**Q1** 基本 積の法則
- □**Q2** 重要 約数の個数

6　順列 …… 24
- □**Q1** 基本 順列
- □**Q2** 重要 順列の考え方の利用

7　円順列，重複順列 …… 28
- □**Q1** 重要 円順列
- □**Q2** 基本 重複順列

8　組合せ …… 32
- □**Q1** 基本 組合せ
- □**Q2** 基本 ${}_nC_r$の性質

9　いろいろな組合せ …… 36
- □**Q1** 重要 積の法則
- □**Q2** 重要 補集合の利用

10　組合せの応用① …… 40
- □**Q1** 重要 組分け
- □**Q2** 重要 同じものを含む順列

11　組合せの応用② …… 44
- □**Q1** 重要 同じものを含む順列（文字列）
- □**Q2** 重要 同じものを含む順列（最短経路）

テスト1　場合の数 …… 48
（1〜11のまとめ）

12　確率の意味 …… 52
- □**Q1** 基本 確率の意味
- □**Q2** 基本 確率の求め方

13　事象の確率 …… 56
- □**Q1** 重要 順列・組合せと確率
- □**Q2** 重要 場合の数の性質と確率

14　確率の基本性質 …… 60
- □**Q1** 基本 和事象・積事象の確率
- □**Q2** 基本 確率の基本性質

15　確率の加法定理 …… 64
- □**Q1** 基本 確率の加法定理
- □**Q2** 重要 確率の加法定理（3つの事象）

16　余事象，和事象の確率 …… 68
- □**Q1** 重要 余事象の確率
- □**Q2** 重要 一般の和事象の確率

テスト2　確率 …… 72
（12〜16のまとめ）

17　独立な試行の確率① …… 76
- □**Q1** 基本 独立な試行の確率
- □**Q2** 基本 独立な試行の確率の利用

18　独立な試行の確率② …… 80
- □**Q1** 基本 余事象の確率と独立な試行の確率
- □**Q2** 重要 和事象の確率と独立な試行の確率

19　反復試行の確率① …… 84
- □**Q1** 重要 反復試行の確率の考え方
- □**Q2** 重要 反復試行の確率

20　反復試行の確率② …… 88
- □**Q1** 重要 いろいろな確率と反復試行の確率
- □**Q2** 応用 さまざまな事象と反復試行の確率

21　条件付き確率 …… 92
- □**Q1** 基本 条件付き確率(1)
- □**Q2** 基本 条件付き確率(2)

22　確率の乗法定理 …… 96
- □**Q1** 基本 確率の乗法定理
- □**Q2** 重要 確率の乗法定理の応用

23　期待値 …… 100
- □**Q1** 基本 期待値
- □**Q2** 基本 期待値の求め方

24　期待値の応用 …… 104
- □**Q1** 重要 期待値と損得の判定
- □**Q2** 重要 正負の値をとる期待値

テスト3　確率の応用 …… 108
（17〜24のまとめ）

テスト4　場合の数と確率 …… 112
（1〜24のまとめ）

チャレンジテスト　場合の数と確率 …… 116

図形の性質

1　平行線と比 …… 120
- □**Q1** 基本 内分，外分
- □**Q2** 基本 三角形と比

2　三角形の内角・外角の二等分線と比 …… 124
- □**Q1** 基本 三角形の内角の二等分線と比
- □**Q2** 基本 三角形の外角の二等分線と比

3　三角形の辺と角の大小関係 …… 128
- □**Q1** 基本 三角形の辺と角の大小
- □**Q2** 基本 三角形の辺の長さの関係

4　三角形の重心 …… 132
- □**Q1** 基本 中点連結定理
- □**Q2** 基本 三角形の重心

5　三角形の外心・内心 …… 136
- □**Q1** 基本 三角形の外心
- □**Q2** 基本 三角形の内心

SAMPLE

6 チェバの定理，メネラウスの定理 …… 140
□Q1 応用 チェバの定理
□Q2 応用 メネラウスの定理

テスト1 三角形の性質（1〜6のまとめ） …… 144

7 円の弧と弦 …… 148
□Q1 基本 円の弧と弦
□Q2 基本 円周角の定理
8 円周角の定理とその逆 …… 152
□Q1 基本 円周角と弧の長さ
□Q2 基本 円周角の定理の逆
9 円に内接する四角形 …… 156
□Q1 基本 円に内接する四角形
□Q2 基本 四角形が円に内接するための条件
10 円と直線 …… 160
□Q1 基本 円と直線の位置関係
□Q2 基本 接線の長さ
11 円と接線 …… 164
□Q1 重要 円と接線
□Q2 基本 円の接線と弦の作る角
12 方べきの定理 …… 168
□Q1 基本 方べきの定理(1)
□Q2 基本 方べきの定理(2)
13 2つの円の位置関係 …… 172
□Q1 基本 2円の位置関係
□Q2 重要 共通接線

テスト2 円の性質（7〜13のまとめ） …… 176

14 作図(1) …… 180
□Q 基本 基本の作図
15 作図(2) …… 184
□Q1 基本 内分点の作図
□Q2 基本 長さの作図
16 直線と平面 …… 188
□Q 基本 直線と平面
17 空間図形と多面体 …… 192
□Q1 基本 正多面体
□Q2 基本 オイラーの多面体定理

テスト3 図形の性質（14〜17のまとめ） …… 196

チャレンジテスト 図形の性質 …… 200

数学と人間の活動

1 約数と倍数 …… 204
□Q1 基本 約数，倍数
□Q2 重要 倍数であることの証明
2 倍数の判定法 …… 208
□Q1 基本 倍数の判定法
□Q2 重要 条件を満たす倍数の求め方
3 素因数分解 …… 212
□Q1 基本 素因数分解
□Q2 重要 $\sqrt{N}$が自然数となるようなNの決定
4 約数の個数 …… 216
□Q1 基本 約数の個数
□Q2 重要 約数の個数からの自然数の決定
5 最大公約数，最小公倍数 …… 220
□Q1 基本 最大公約数，最小公倍数
□Q2 重要 最小公倍数からの自然数の決定
6 互いに素 …… 224
□Q1 基本 互いに素
□Q2 重要 互いに素な自然数の性質

テスト1 約数と倍数（1〜6のまとめ） …… 228

7 整数の割り算における商と余り …… 232
□Q1 基本 整数の割り算
□Q2 重要 文字式を整数で割ったときの余り
8 余りによる整数の分類 …… 236
□Q 基本 余りによる整数の分類
9 ユークリッドの互除法 …… 240
□Q1 基本 ユークリッドの互除法
□Q2 重要 等式を満たす整数
10 $ax+by=c$の整数解 …… 244
□Q 基本 $ax+by=c$の整数解
11 分数と有限小数，循環小数 …… 248
□Q1 基本 有限小数，循環小数
□Q2 基本 有限小数で表される分数
12 n進法 …… 252
□Q1 基本 n進法⇒10進法の変換
□Q2 基本 10進法⇒n進法の変換

テスト2 ユークリッドの互除法（7〜12のまとめ） …… 256
テスト3 数学と人間の活動（1〜12のまとめ） …… 260
チャレンジテスト 数学と人間の活動 …… 264

13 空間の位置の表し方，測量 …… 268
□Q1 基本 空間座標
□Q2 基本 測量
14 数学とゲーム …… 274
□Q1 基本 図形の敷き詰め
□Q2 基本 石取りゲーム

公式集 …… 280

SAMPLE

1 場合の数と確率
集合

基本 Q1 $A=\{1,\ 4,\ 6,\ 7,\ 9\}$，$B=\{2,\ 4,\ 6,\ 8\}$ について，次の集合を求めなさい。

(1) $A\cap B$　　(2) $A\cup B$

共通部分と和集合

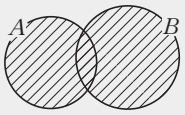
「1から10までの自然数の集まり」のように，範囲がはっきりしたものの集まりを**集合**といい，集合に入っている1つ1つのものをその集合の**要素**という。

A，B の両方に属する要素全体の集合を A と B の**共通部分**といい，$A\cap B$ で表す。

共通部分 $A\cap B$

A，B の少なくとも一方に属する要素全体の集合を A と B の**和集合**といい，$A\cup B$ で表す。

和集合 $A\cup B$



考え方

(1) 両方に属する要素を並べる。

(2) 少なくとも一方に入っている要素を並べる。

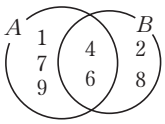
答案

(1) A と B のどちらにも入っている要素は 4，6 だから，

$A\cap B=\{4,\ 6\}$ ……答

(2) A と B の少なくとも一方に入っている要素は 1，2，4，6，7，8，9 だから，

$A\cup B=\{1,\ 2,\ 4,\ 6,\ 7,\ 8,\ 9\}$ ……答



重要 Q2 $U=\{x\mid x$ は10以下の自然数$\}$ を全体集合とし，$A=\{1,\ 4,\ 6,\ 7,\ 9\}$，$B=\{2,\ 4,\ 6,\ 8\}$ とするとき，次の集合を求めなさい。

(1) $\overline{A\cup B}$　　(2) $\overline{A}\cap\overline{B}$

補集合の性質

U を全体集合とし，A を U の部分集合とする。

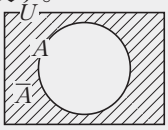
U の要素で A に属さない要素全体の集合を，

U に関する A の**補集合**といい，$\overline{A}$ で表す。

$A\cap\overline{A}=\phi$

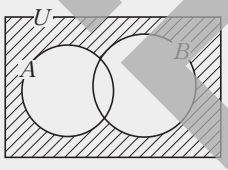
$A\cup\overline{A}=U$　　$\overline{\overline{A}}=A$

(注意)　$\overline{A}$ は A の補集合を表す。

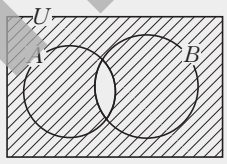


ド・モルガンの法則

$\overline{A\cup B}=\overline{A}\cap\overline{B}$



$\overline{A\cap B}=\overline{A}\cup\overline{B}$



考え方

A，B は Q1 と同じ。

全体集合 U を確認する。

(1) $\overline{A\cup B}$ は $A\cup B$ の補集合。

(2) $\overline{A}\cap\overline{B}$ は $\overline{A}$ と $\overline{B}$ の共通部分。

ド・モルガンの法則

$\overline{A}\cap\overline{B}=\overline{A\cup B}$

を使って求めてもよい。

答案

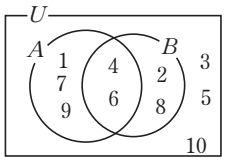
(1) $A\cup B=\{1,\ 2,\ 4,\ 6,\ 7,\ 8,\ 9\}$ より，

$\overline{A\cup B}=\{3,\ 5,\ 10\}$ ……答

(2) $\overline{A}=\{2,\ 3,\ 5,\ 8,\ 10\}$，

$\overline{B}=\{1,\ 3,\ 5,\ 7,\ 9,\ 10\}$ より，

$\overline{A}\cap\overline{B}=\{3,\ 5,\ 10\}$ ……答　※ $\overline{A}\cap\overline{B}=\overline{A\cup B}$



【別解】　ド・モルガンの法則から，

$\overline{A}\cap\overline{B}=\overline{A\cup B}=\{3,\ 5,\ 10\}$ ……答

SAMPLE

学習日　　月　　日

学習の目標

❶ 2つの集合の共通部分と和集合について理解を深め，図示できるようにしよう。
❷ 補集合とド・モルガンの法則を理解し，記号を使って集合や集合の関係を表してみよう。

Q1 〈共通部分と和集合〉について，まとめよう。

まとめ

■ A，B の両方に属する要素全体の集合を A と B の［　　］といい，［　　］で表す。

A，B の少なくとも一方に属する要素全体の集合を A と B の［　　］といい，［　　］で表す。

確認問題

● $A=\{1,\ 3,\ 5,\ 7\}$，$B=\{4,\ 5,\ 6,\ 7,\ 8\}$ について，次の集合を求めなさい。

□□□(1)　$A\cap B$　　□□□(2)　$A\cup B$

(1)　$A\cap B=$［　　］　　(2)　$A\cup B=$［　　］

Q2 〈補集合の性質〉について，まとめよう。

まとめ

■ U を全体集合とし，A を U の部分集合とする。

U の要素で A に属さない要素全体の集合を，U に関する A の［　　］といい，［　　］で表す。

$A\cap\overline{A}=$［　　］　$A\cup\overline{A}=$［　　］　$\overline{\overline{A}}=$［　　］

また，次の［　　］の法則が成り立つ。

$\overline{A\cup B}=$［　　］　$\overline{A\cap B}=$［　　］

確認問題

● $U=\{x \mid x$ は 20 以下の正の偶数$\}$ を全体集合，$A=\{6,\ 10,\ 14,\ 18\}$，
$B=\{10,\ 12,\ 14,\ 16,\ 18,\ 20\}$ とする。このとき，次の集合を求めなさい。

□□□(1)　$\overline{A\cup B}$　□□□(2)　$\overline{A}\cap\overline{B}$　□□□(3)　$\overline{A\cap B}$　□□□(4)　$\overline{A}\cup\overline{B}$

(1)　$A\cup B=$［　　］より，$\overline{A\cup B}=$［　　］

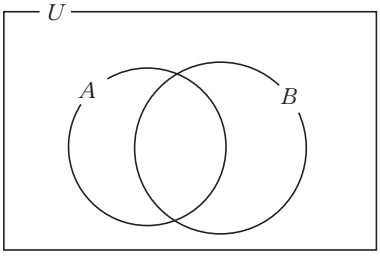
(2)　$\overline{A}=$［　　］，$\overline{B}=$［　　］より，

$\overline{A}\cap\overline{B}=$［　　］

(3)　$A\cap B=$［　　］より，

$\overline{A\cap B}=$［　　］

(4)　$\overline{A}\cup\overline{B}=$［　　］



SAMPLE

演習問題

1 次の2つの集合 A，B について，$A \cap B$，$A \cup B$ を求めなさい。 Q1

☀ □□□(1) $A=\{1,\ 2,\ 3,\ 4,\ 5,\ 6\}$，　$B=\{3,\ 6,\ 9\}$

□□□(2) $A=\{x \mid x$ は6以下の自然数$\}$，　$B=\{x \mid x$ は10の正の約数$\}$

☀ □□□(3) $A=\{1,\ 2,\ 3,\ 4,\ 5\}$，　$B=\{6,\ 7,\ 8\}$

2 $U=\{x \mid x$ は10以下の自然数$\}$ を全体集合とし，$A=\{x \mid x$ は6の正の約数$\}$，
$B=\{1,\ 2,\ 4,\ 6,\ 8\}$ とする。このとき，次の集合を求めなさい。 Q2

☀ □□□(1) $\overline{A \cup B}$　　□□□(2) $\overline{A} \cap \overline{B}$

□□□(3) $\overline{A \cap B}$　　☀ □□□(4) $\overline{A} \cup \overline{B}$

♛ **3** $U=\{1,\ 2,\ 3,\ 4,\ 5,\ 6,\ 7,\ 8\}$ を全体集合とし，$A=\{1,\ 4,\ 7\}$，$B=\{2,\ 4,\ 6,\ 8\}$ とする。
このとき，次の集合を求めなさい。

□□□(1) $\overline{A}$　　□□□(2) $\overline{B}$

□□□(3) $\overline{A} \cap B$　　□□□(4) $A \cap \overline{B}$

□□□(5) $\overline{A} \cup B$　　□□□(6) $A \cup \overline{B}$

SAMPLE

理解度チェック

次の空欄をうめなさい。

□□□(1)　A，B の両方に属する要素全体の集合を A と B の［　　］といい，［　　］で表す。

A，B の少なくとも一方に属する要素全体の集合を A と B の［　　］といい，［　　］で表す。

□□□(2)　U を全体集合とし，A を U の部分集合とする。U の要素で A に属さない要素全体の集合を，U に関する A の［　　］といい，［　　］で表す。

$A\cap\overline{A}=$［　　］　$A\cup\overline{A}=$［　　］　$\overline{\overline{A}}=$［　　］

1　**次の 2 つの集合 A，B について，$A\cap B$，$A\cup B$ を求めなさい。**

□□□(1)　$A=\{0,\ 1,\ 3,\ 6\}$，　$B=\{0,\ 1,\ 2,\ 3,\ 4,\ 5\}$

□□□(2)　$A=\{2,\ 3,\ 4,\ 5,\ 6\}$，　$B=\{2,\ 4,\ 6,\ 8,\ 10\}$

2　**$U=\{x\mid x$ は 9 以下の自然数$\}$ を全体集合とし，$A=\{1,\ 3,\ 5,\ 7\}$，$B=\{2,\ 3,\ 5,\ 6,\ 8,\ 9\}$ とする。このとき，次の集合を求めなさい。**

□□□(1)　$\overline{A\cup B}$　　□□□(2)　$\overline{A}\cap\overline{B}$

□□□(3)　$\overline{A\cap B}$　　□□□(4)　$\overline{A}\cup\overline{B}$

SAMPLE

★自分でチェックしてみよう★　　**●集合**

項　目	1 回目(　／　)	2 回目(　／　)	3 回目(　／　)	ここに戻る
共通部分の意味を理解した	yes / no	yes / no	yes / no	→ Q1
和集合の意味を理解した	yes / no	yes / no	yes / no	→ Q1
補集合の意味を理解した	yes / no	yes / no	yes / no	→ Q2
ド・モルガンの法則を理解した	yes / no	yes / no	yes / no	→ Q2

先生メモ

2 場合の数と確率
集合の要素の個数

基本 **Q1** $A=\{x \mid x$ は1桁の自然数$\}$，$B=\{x \mid x$ は12の正の約数$\}$ とするとき，次の値を求めなさい。

(1) $n(A)$，$n(B)$　　(2) $n(A\cap B)$　　(3) $n(A\cup B)$

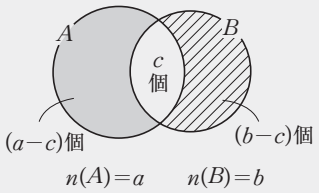
集合の要素の個数

集合 A の要素の個数が有限のとき，その個数を $n(A)$ で表す。

2つの集合 A，B に対して，次の関係式が成り立つ。

和集合の要素の個数　$n(A\cup B)=n(A)+n(B)-n(A\cap B)$

特に，$A\cap B=\phi$ のとき，$n(A\cup B)=n(A)+n(B)$



考え方

(1) A，B それぞれを要素を並べて表し，個数を調べる。

(2) A と B に共通な要素の個数を求める。

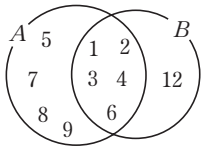
(3) $n(A\cup B)=n(A)+n(B)-n(A\cap B)$ を使って求める。

答案

(1) $A=\{1,\ 2,\ 3,\ 4,\ 5,\ 6,\ 7,\ 8,\ 9\}$，
$B=\{1,\ 2,\ 3,\ 4,\ 6,\ 12\}$ より，
$n(A)=9$，$n(B)=6$ ……答

(2) $A\cap B=\{1,\ 2,\ 3,\ 4,\ 6\}$ より，
$n(A\cap B)=5$ ……答

(3) $n(A\cup B)=n(A)+n(B)-n(A\cap B)$
$=9+6-5=10$ ……答



基本 **Q2** U を全体集合とし，A，B を U の部分集合とする。

$n(U)=30$，$n(A)=8$，$n(B)=15$，$n(A\cup B)=20$ のとき，次の値を求めなさい。

(1) $n(\overline{A})$　　(2) $n(A\cap B)$　　(3) $n(\overline{A}\cup\overline{B})$

補集合の要素の個数

U を全体集合とし，A を U の部分集合とすると，$\overline{A}$ の要素は，U の要素から A の要素を除いたものである。

補集合の要素の個数　$n(\overline{A})=n(U)-n(A)$

考え方

(1) $n(\overline{A})=n(U)-n(A)$ により求める。

(2) $n(A\cup B)=n(A)+n(B)-n(A\cap B)$ により求める。

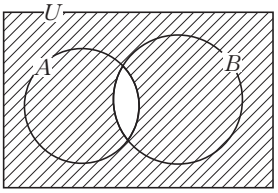
(3) ド・モルガンの法則より，
$\overline{A}\cup\overline{B}=\overline{A\cap B}$ P.4 Q2
また，補集合の要素の個数
$n(\overline{A\cap B})=n(U)-n(A\cap B)$
を利用する。

答案

(1) $n(\overline{A})=n(U)-n(A)$
$=30-8=22$ ……答

(2) $n(A\cup B)=n(A)+n(B)-n(A\cap B)$ より，
$n(A\cap B)=n(A)+n(B)-n(A\cup B)$
$=8+15-20=3$ ……答

(3) ド・モルガンの法則より，
$\overline{A}\cup\overline{B}=\overline{A\cap B}$
$n(\overline{A}\cup\overline{B})=n(\overline{A\cap B})$
$=n(U)-n(A\cap B)$
$=30-3=27$ ……答



SAMPLE

学習日　　月　　日

学習の目標

❶ 集合の要素の個数について，理解を深めよう。
❷ 補集合やド・モルガンの法則の理解を深め，いろいろな集合の要素の個数を求めてみよう。

Q1 〈集合の要素の個数〉について，まとめよう。

まとめ

■ 集合 A の要素の個数が有限のとき，その個数を［　　］で表す。

和集合の要素の個数　$n(A\cup B)=$［　　］$+$［　　］$-$［　　］

特に，$A\cap B=\phi$ のとき，$n(A\cup B)=$［　　］$+$［　　］

確認問題

● $A=\{x \mid x$ は 10 以下の正の整数$\}$，$B=\{x \mid x$ は 18 の正の約数$\}$ とするとき，次の値を求めなさい。

□□□(1) $n(A)$　□□□(2) $n(B)$　□□□(3) $n(A\cap B)$　□□□(4) $n(A\cup B)$

(1) 要素を書き並べて表す。

$A=$［　　］

よって，$n(A)=$［　　］

(2) 要素を書き並べて表す。

$B=$［　　］

よって，$n(B)=$［　　］

(3) $A\cap B=$［　　］

よって，$n(A\cap B)=$［　　］

(4) $n(A\cup B)=$［　　］$+n(B)-$［　　］

$=$［　　］

Q2 〈補集合の要素の個数〉について，まとめよう。

まとめ

■ A の補集合 $\overline{A}$ の要素は，全体集合 U の要素から［　　］を除いたものである。

補集合の要素の個数　$n(\overline{A})=$［　　］$-$［　　］

確認問題

● $n(U)=50$，$n(A)=30$，$n(B)=35$，$n(A\cup B)=45$ のとき，次の値を求めなさい。

□□□(1) $n(\overline{A})$　□□□(2) $n(A\cap B)$　□□□(3) $n(\overline{A}\cup\overline{B})$

(1) $n(\overline{A})=$［　　］$-$［　　］

$=$［　　］$-$［　　］$=$［　　］

(2) $n(A\cap B)=$［　　］$+$［　　］$-$［　　］

$=$［　　］$+$［　　］$-$［　　］

$=$［　　］

(3) ［　　］より，

$\overline{A}\cup\overline{B}=$［　　］

$n(\overline{A}\cup\overline{B})=$［　　］

$=$［　　］$-$［　　］

$=$［　　］$-$［　　］

$=$［　　］

SAMPLE

演習問題

1 $A=\{x|x$ は 20 以下の正の奇数$\}$，$B=\{x|x$ は 36 の正の約数$\}$ とするとき，次の値を求めなさい。 Q1

☀ □□□(1) $n(A)$

☀ □□□(2) $n(B)$

□□□(3) $n(A\cap B)$

□□□(4) $n(A\cup B)$

2 U を全体集合とし，A，B を U の部分集合とする。
$n(U)=60$，$n(A)=27$，$n(B)=20$，$n(A\cup B)=38$ のとき，次の値を求めなさい。 Q2

☀ □□□(1) $n(\overline{A})$

☀ □□□(2) $n(A\cap B)$

□□□(3) $n(\overline{A}\cup\overline{B})$

□□□(4) $n(\overline{A}\cap\overline{B})$

♛ **3** U を全体集合とし，A，B を U の部分集合とする。
$n(U)=20$，$n(A)=5$，$n(B)=13$，$n(A\cup B)=15$ のとき，次の値を求めなさい。

□□□(1) $n(A\cap\overline{B})$

□□□(2) $n(\overline{A}\cup B)$

SAMPLE

理解度チェック

★ **次の空欄をうめなさい。**

□□□(1)　集合 A の要素の個数が有限のとき，その個数を［　　］で表す。

和集合の要素の個数　　$n(A\cup B)=$［　　］$+$［　　］$-$［　　］

特に，$A\cap B=\phi$ のとき，　$n(A\cup B)=$［　　］$+$［　　］

□□□(2)　A の補集合 $\overline{A}$ の要素は，全体集合 U の要素から［　　］を除いたものである。

補集合の要素の個数　　$n(\overline{A})=$［　　］$-$［　　］

1　**$A=\{x\mid x$ は 20 以下の正の偶数$\}$，$B=\{x\mid x$ は 24 の正の約数$\}$ とするとき，次の値を求めなさい。**

□□□(1)　$n(A)$　　□□□(2)　$n(B)$

□□□(3)　$n(A\cap B)$　　□□□(4)　$n(A\cup B)$

2　**U を全体集合とし，A，B を U の部分集合とする。**
$n(U)=40$，$n(A)=18$，$n(B)=23$，$n(A\cup B)=31$ のとき，次の値を求めなさい。

□□□(1)　$n(\overline{A})$　　□□□(2)　$n(A\cap B)$　　□□□(3)　$n(\overline{A}\cap\overline{B})$

SAMPLE

★自分でチェックしてみよう★　　**●集合の要素の個数**

項　目	1回目(　／　)	2回目(　／　)	3回目(　／　)	ここに戻る
集合の要素の個数が求められた	yes / no	yes / no	yes / no	→ Q1
補集合の要素の個数が求められた	yes / no	yes / no	yes / no	→ Q2

先生メモ